

問 原研道路に防犯灯の設置を

答 積極的に設置する方向で検討する



新政とうかい
ささしま じろう 議員

問 原研道路は、街路灯が設置されていないため、夜間がとても暗く防犯や安全上に問題がある。昨年6月議会ですら、白方中央地区の狭隘道路の解消の中で「この地区の方は、都市計画税を納税しているのに、何十年も改善や要望がかなっていない。住民の方が嘆いている。」と説明した。村は何ができるのか伺う。



防犯灯がない東海中学校前の原研道路

答 暗がりになる場所や通行に支障があるような場所などの調査を行い、県に対し歩行者用照明の設置を協議するなど、原研道路の安全を図るための連携を行う。

問 県道であったとしても改善を訴えることはできるはず。この区間は、東海中学校があり、生徒たちが夕方の暗闇の中を帰宅している。県が進まなければ、村が電柱に防犯灯を設置することができないか伺う。

答 歩行者用の照明は、夜間における村民の安全確保や犯罪防止の役割もあり、県と協議の上、村が主体的に設置する方向で検討を進める。

問 若者が戻ってきたい地域づくり

答 自由に話せる場づくりから始める



新政とうかい
かわさき ゆうや 議員

問 東海村わかもの会議の取り組みについて

答 東海村わかもの会議は、昨年10月に高校生や大学生などが「普段何を感じ、何を考えているのか」を自由に話せるような、緩やかな場としてスタートした。「住みやすい・住み続けたいまちになるためには」を若者自身で考えるワークショップを展開し、その中から出たアイデアを「わかものアンケート」や「わかものカフェ」といった具体的な取り組みにつなげられた。

問 参加者は「わかもの会議」で、どのような



わかもの会議のメンバーが輪になって対話

な目的や目標を持つことができたのか。

答 複数の参加者は、実際に参加してみても、最初は受け身であったが、「いつの間にかまた参加したいと思う自分が見えた」など意識の変化が見られ、当初の目的であった「自由に話せる緩やかな場」ができたと考えている。じっくりと腰を据えてわかもの会議が新たな居場所となり、若者の思いをカタチにできる場となるよう、若者と取り組んでいく。